

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

夜間定時制高校として果たすべき役割をふまえ、命の大切さや他者を思いやる豊かな人間性の育成に取り組むとともに、地域社会に根ざした学校づくりをめざす

- 1 生徒一人ひとりが、学ぶことの大切さを知り、生涯にわたって豊かな生活を築くことのできる力を育む教育活動を展開する
- 2 自己肯定感を育み、人を思いやる人間性を養い、自分を律して自立した生活を営むことができる生徒を育成する
- 3 地域社会に貢献できる人材の育成をめざす

## 2 中期的目標

## 1 基礎基本の学力を身につけさせるとともに、生徒の希望する進路の実現をめざす

- (1) きめ細かな分かりやすい授業展開を行うなど、教員の授業力の向上を図ることにより、基礎基本の学力を身につけさせる
- (2) 多様な生徒に対する進路選択のサポートを強化するとともに、総合学科としてのカリキュラムの充実を図る
- (3) 入学した生徒全員が確かな学力を身に付けるよう取組みを推進するとともに、各種資格取得のための支援体制を強化する
- (4) 生徒一人ひとりが「入って良かった」と実感できる学校をめざし、長欠及び中途退学の抑止に努める
- (5) 生徒の自己実現の達成のため、あらゆる機会を通じてキャリア教育の充実を図り、すべての卒業生の進路決定をめざす

## 2 豊かな人間性の育成と生徒自らが活気ある学校生活を送るための支援を進める

- (1) あいさつ運動の定着化により、社会人として必要な基本的生活習慣と規範意識を身に付けさせる
- (2) 部活動の活性化を図り、心身ともに健康で実社会を生き抜いていくたくましさを育む
- (3) 人権尊重の視点にたった教育活動に積極的に取り組み、自尊心と他者を思いやる豊かな人間性を育む
- (4) 「校内ケース会議」を中心として、家庭・地域との連携、SW（ソーシャル・ワーカー）等外部機関の活用を図る

## 3 開かれた学校づくりのための取組みを推進する

- (1) Webの活用などの工夫により、地域との連携や地元中学校への広報に努める
- (2) 地域から愛される学校づくりに努める

## 4 学校運営体制の活性化を図る

- (1) 各種委員会の再編と活性化を行い、円滑な校務運営を推進する
- (2) 各種校内規程の見直しをさらに進め、時代の趨勢に適応した組織作りに努める
- (3) 学校経営計画に定めた、めざす学校像や目標の達成に教職員が一致協力して取り組む

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(1) 昨年度との経年変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に保護者の肯定的な回答が若干微減している。H25 年度からの提出数が 18→12→22 と推移し、増加傾向にある。</li> <li>・生徒・教員の肯定的な意見の割合は、全体として大きな変化はない。</li> <li>・学校生活の満足を問うものについては、生徒・保護者とも肯定感が高く、特に保護者の「入学させてよかった」は 95.5%であった。</li> <li>・「先生は、悩みや相談に親身になって対応してくれる」は、生徒・保護者の肯定感の高さと教員自身の評価が一致している。寄り添う教育の成果がでている。</li> <li>・部活動の活発さについて、生徒・保護者の肯定感は増加している。行事については、肯定感が微減。内容等の熟考が必要。</li> <li>・「いじめは見られない」については、生徒の肯定的なとらえ方が増加。人権の設問は、肯定的なとらえ方が生徒・保護者・教員ともに増加。</li> </ul> <p>(2) 生徒と教員及び保護者と教員の回答傾向の比較</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設設備については、生徒・教員共に肯定感が低い。夜間の定時制として安全の観点から照明等の充実が必要。</li> <li>・生徒と教員及び保護者ともに人権教育への肯定感がアップ。研修の成果である。一方「キャリア教育」関連は肯定的なとらえ方が減少。</li> </ul> <p>(3) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後を見据えたキャリア教育・進路指導の体制の強化を考える必要がある。</li> <li>・保護者と学校との協働や関心を高める工夫が必要である。情報伝達を含め様々な形での保護者との連携を考えなければならない。</li> <li>・人権教育については、引き続き研修等で学ぶ機会を拡げていく必要がある。</li> </ul>	<p>第1回 6月26日(金) —授業見学と協議—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒を学年始めから定着させるために、オリエンテーションと仲間作りは大切である。夜間中学卒業生を始め年齢や環境の多様な生徒を受け入れ、交流を通して教師が成長を支援する方法がある。高齢者が入ってくると、若年層が態度や行動で見習うことも多い。</li> <li>・生涯学習として学びに来られる方の意欲は大きい、そういった姿を若い生徒に見せることは大切である。</li> <li>・学校の先生以外の社会教育に関わる人材を学校に入れて、地域教育としてのシステムを作っていくのは効果がある。</li> </ul> <p>第2回 11月6日(金) —文化祭の見学と協議—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SC、SSWの効果について、SSWなどの働きについて理解する研修から始めたことを実際の事例を含め報告した。SSWは福祉などの様々な機関とのつなぎ役として有効である。</li> <li>・「子どものために」と突っ込んでいく教員とは違った、少し引いた視点で見える人がいることは大事。生徒の情報もいろいろな視点からとらえることができる。</li> <li>・夜間中学校からの生徒受入れは継続的に取り組み、人数を増やすことを考えた方がよい。出前授業の実施など、高校を体験する機会を持ってもらうことを徐々に取り組めばよい。</li> </ul> <p>第3回 2月5日(金)実施</p> <p>○授業アンケート、実態調査、自己診断結果の分析について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態にあわせ、カリキュラム変更をして興味関心を高めて、中退防止につなげてほしい。また、地域との交流方法に、生徒が「学校用広報等のチラシ」を配付するのも効果的である。</li> <li>・夜間中学校の授業開始前に教員と交流会を実施し、夜間中学校生徒の実態を理解する。</li> <li>・授業アンケートの結果、普通科と工業科の平均を比較したところ、初めて普通科の平均が高い結果となった。自己診断の「生徒は授業を理解している」の項目の数値が 40%アップ。「わかる授業」の実施が研修の結果に結びついた。</li> <li>・自己診断結果の人権に関する項目では、生徒・保護者・教職員ともに大きく向上した。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎学力の向上と自己実現の支援	(1) 基礎学力の向上のために授業を改善する (2) 長欠や中退防止への対応 (3) 進級、卒業に向けた早期段階からの意識づけと低学年からのキャリア教育の充実	(1) ・生徒の基礎学力向上に向けた「わかる授業」実践のため、中学校との連携や教員相互の授業公開・意見交換を行う ・定期考査や授業アンケートを活用し、生徒の授業内容の理解度やニーズの把握し、授業改善の推進やシラバスを充実させる (2) ・保護者との連絡体制・連携の強化を行うとともに、家庭訪問等においては早期の対応を心がける ・保護者懇談会は勿論、機会を捉えて生徒面談を行い細やかな意思の疎通を図る (3) ・生徒のニーズに応じた、教科科目の選択や受講指導の実施 ・教科担当者会議を充実させ、担任や学年団が連携し共通理解を持つ ・進路指導の充実のため、公共職業安定所等との連携や企業訪問による就職先の開拓 ・あらゆる機会を通じて、低学年からのキャリア教育の充実を図る	(1) ・様々なタイプの研究授業を年3回実施し、授業改善の工夫を行う ・各教科・科目 IzSoTei Standard の共有・検討・改善の実施 (2) ・保護者へのメール一斉配信、月1回程度行う ・「学校教育自己診断」で、保護者の本校Webページや校長ブログの閲覧状況を問う ・出席率の前年度比5%増(昨年度66.8%) ・中退率の前年度比3%減(昨年度8.3%) (3) ・資格取得合格者数、前年度数を維持(昨年度60人) ・応募前職場見学会や企業訪問、前年度レベルを維持(昨年度各53人、68人) ・進路決定率100%の実現	(1) ・支援学校相互連携、全日制初任者との交流を経て、支援学校との共同学習に発展。授業改善の骨子を育成(○) ・IzSoTei Standardは「育成支援事業」を通じ完成。共有を図る(◎) (2) ・一斉配信はできていない。配信方法等再度検討必要(△) ・校長ブログは実施できず(△) ・今年度の出席率は72.1%(○) ・今年度の中退率は前年度末13.7%から減少した(○) (3) ・資格取得合格者数65人で、前年の10%増(◎) ・応募前職場見学会は21社、参加数25人で前年より大幅に減少(△) ・進路決定率は74%(△)で、卒業後も企業見学等継続支援
2 豊かな人間性の育成	(1) 円滑な人間関係を築くためのマナーや規範意識の向上 (2) 安らぎのある学校環境の整備 (3) 生徒会活動・部活動の活性化 (4) 他人や自分に対する人権意識を向上させる	(1) ・登校時の正門前での「あいさつ運動」の継続と、全ての授業の開始・終了後に「起立・礼」を励行する (2) ・正門前から玄関に至る緑化運動(四季の花植え)と冬季のイルミネーションでの生徒の迎え入れ ・グラウンドの照明、校舎周辺の街灯など、環境整備に力を注ぐ ・スクールカウンセラーとの連携による教育相談体制の充実を図る ・SSW(スクール・ソーシャル・ワーカー)の導入やCSW(コミュニティ・ソーシャル・ワーカー)との連携強化 ・学年団や分掌等、あらゆる場面での組織的対応の実践 (3) ・生徒会活動・部活動の活性化 ・生徒会活動で取り組む清掃活動の参加者の輪を広げ、普段の清掃に繋げる ・生徒会活動を通じ、学校の中核となる生徒を育成する (4) ・身近な差別事象や人権問題を取り扱うことで意思の向上を図る ・薬物乱用防止教室、交通安全教育などは、具体的な内容を伝えることで充実を図る	(1) ・授業開始、終了時の挨拶実施の励行と定着 (2) ・教職員や保護者に限らず、多くの生徒の参加を促す ・門付近の照度5%向上とイルミネーションの拡充 ・「校内ケース会議」の活動定着と強化 ・CSW、地域の就学支援組織等外部機関との連携による保護者・家庭の立て直しにより、生徒の学習充実・進路実現をめざす (3) ・部活動参加者の5%増加をめざす(昨年度はのべ100人) ・生徒会による清掃活動を活性化させる ・文化祭での生徒の主体的活動の充実を図る (4) ・学校教育自己診断の生徒の人権に関する設問への肯定的な回答率5%向上(昨年度は40%)	(1) ・挨拶の励行は定着している(○) (2) ・緑化対象地帯である「和泉総合庭園」を改修(○) ・体育館渡り廊下にLED照明の増設とイルミネーションの追加を行った(◎) ・「教育相談校内委員会」は、定例化。SSWも参画し、指導助言を得て、生徒への効果アップ(◎) ・様々な事例で和泉市の福祉機関と連携(◎) (3) ・部活動参加者は71.6%のべ111人の10%増加(◎) ・生徒会に活性化がみられ、仲間作りが進んだ。(○) (4) ・人権に関する設問への肯定的な回答率は2.2%向上、その分「わからない」が6.4%低下(○)
3 地域社会との連携	(1) 開かれた学校づくりをめざした取組み (2) 「ものづくり体験学習」の開催	(1) ・エコデンレース・秋季発表大会・産業教育フェア等への積極的参加やWebの活用により、本校の教育活動の成果を地域に広報する ・地域の清掃活動への参加、校内での美化運動と学校周辺の清掃活動などの定着 ・文化祭等の学校行事への近隣住民・中学校教員を招き、学校の状況を知らせるとともに意見を参考にして今後の学校運営に資する (2) ・夏季休業期間を利用して地域の児童・生徒、保護者・小中学校教員対象の「ものづくり体験学習」を実施する	(1) ・地元中学との連携を年3回、工夫を加えながら行う ・「校長ブログ」を継続的発信し、2年分をデータベース化して本校Webページにアップする ・生徒と教職員による、年2回の地域清掃の定着 ・文化祭等の学校行事への外部参加数の維持(例年15~20人) (2) ・「ものづくり体験教室」参加者数の増加(昨年度3名)	(1) ・授業公開週間と地元中学向け学校説明会を取り入れるなど工夫を行った。(○) ・「校長ブログ」は発信できなかった。(△) ・年2回が定着(○) ・昨年度とほぼ同数の25人参加を得た(○) (2) ・11名の参加者。約35%増加(◎)